

# NEWS RRM

[ニュース] Regional Resource Management



〈キャンパス前の風景〉

キャンパス眼前に広がる「コウノトリ育む水田」には水が満たされ、盆地を取り囲む山々が美しく映し出されている。生物の活動は日に日にその勢いが感じ取れ、夜になればカエルの大合唱がこだまする。いきものざわめく季節がやってきた。コウノトリの雛は親鳥と遜色ない大きさに成長し、個体識別のために装着された足輪が巣立ちへのカウントダウンを告げている。今年鳥取市にも営巣地が拡大し、「全国へそして世界へ」というスローガンを掲げた野生復帰事業も着実にその成果をあげている。

今年入学した1回生は緊張した面持ちで4月のオリエンテーションに出席し、事務的な手続きも早々に、教員や先輩らと共に各々のフィールドに足を運んでいる。やれ水温ロガーの設置だ、網の使い方はこうだななどレクチャーを受け、本番に向けての研究準備が着々と進んでいる。2回生はというと、研究の進捗を気にしつつ慣れないスーツを着て就活に勤しんでいる者、博士課程進学を志し、初めて論文を執筆する者など様々であるが、これまでのやりとりで感じられることは、この1年で研究者として社会人として成長したことである。内々定の嬉しい知らせを届けてくれた学生は、「これからは研究に専念します」と静かに宣言し、潜水観察をするためのドライスーツのほつれを手際よく修理し、溢れ出るアイデアを取捨選択しながら自主的に

## 新生RRM始動

研究科長 佐川 志朗

調査・研究に邁進している。本当に頼もしくなったものだ。

当研究科は今年で6年目を迎える。大学院設置に多大な尽力をされた3名の先生方が退官され、新たな教員を迎えてこの4月から心新たにスタートをきっている。エコ領域ではアホウドリの野生復帰の立役者である出口先生、ジオ領域では地球科学をベースに理科教育学にも精通されている川村先生、黒曜石を題材とした気鋭の研究者である佐野先生のお三方が赴任された。先日、地元や関係諸氏に声をかけて新任教員のお披露目会を行ったが、講義室がいっぱいになるくらいに多くの方が参加され、3名への関心の高さと、大学院に対する期待が感じられ、身が引き締まる思いがした。今まで培ってきた伝統を活かしつつ我々の感性も加味させて、コウノトリの野生復帰や世界ジオパークを核にした国内外における連携を強めていきたい。当研究科は但馬で唯一の高等教育機関として、地域資源をマネジメントするという大役を担っているということに肝に銘じ、これからのその役割を果たしていかなければならない。

大学院生の研究報告会やサイエンスカフェも、大学院が地域に開けた「集える知の拠点」となるようさらなる見直しを行っていきます。皆様方におかれましては、新生RRMへの御指導、御鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。お気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。

## Information

### 〔夏のオープンキャンパス2019〕 〔夏休みオープンキャンパス2019〕 Information 01

当研究科の一般公開「夏のオープンキャンパス」を、令和元年7月7日(日)の午後1時45分から開催します。また、地元へ帰省中の学生の皆さんや高校生など、但馬にある大学院を体験してみたい方に向けて、「夏休みオープンキャンパス」を令和元年8月4日(日)に開催します。オープンキャンパスでは研究科や入学試験の概要を紹介し、展示による大学院生の研究活動紹介を行います。当研究科に興味のある方、受験を検討されている方、また広く但馬周辺地域にお住まいの方の参加をお待ちしています。

- 日 時： ● 夏のオープンキャンパス：  
令和元年7月7日(日) 13:45～16:15  
● 夏休みオープンキャンパス：  
令和元年8月4日(日) 13:45～16:15

場 所： ● 兵庫県立大学豊岡ジョ・コウノトリキャンパス  
(豊岡市祥雲寺128番地)

- 内 容： (1) 研究科、カリキュラム、入学試験についての説明  
(2) 施設やフィールドの見学、大学院生の研究紹介  
(3) 個別相談、在学生との交流

※オープンキャンパスを含む前6日間、個別相談を毎日受け入れます。随時受付しておりますので、希望日時と話を聞きたい教員をお知らせください。

### 〔博士前期課程 A日程入試〕 〔博士後期課程 第1回入試〕 Information 02

博士前期課程A日程入試(全日程を合わせて定員12名)および博士後期課程第1回入試(全日程を合わせて定員2名)を、令和元年8月24日(土)に実施いたします。試験は専門試験(小論文)と口述試験、会場は豊岡ジョ・コウノトリキャンパス(豊岡会場)と、神戸商科キャンパス(神戸会場)から選べます。

入試日： 令和元年8月24日(土)  
願書受付： 令和元年7月31日(水)～8月13日(火)

※事前に受験資格審査が必要な場合は、令和元年7月14日(日)～7月28日(日)に審査書類をご提出ください。

〔お問い合わせ〕 各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。

### 第17回 サイエンスカフェRRM Information 03

私たちは誰しも、私たちをとりまくさまざまな物事に、さまざまな想いを照射して生きています。風景もまた例外ではありません。懐かしさを覚える風景、あるいは見たくない風景、時に正負さまざまであったとしても、私たちは何らかの想いをもって風景に相対しているのです。であるからこそ、私たちは風景が急激に変化を遂げてしまうことに、とまどいや寂しさを感じるのかもしれませんが。

地域の社会において育まれ、そこに住まう人々のさまざまな想いが照射されてきた風景=景観を、私たちはどのように受け継いでいけばいいのでしょうか。今回は文化的景観をめぐる事例を手掛かりに、みなさまと考えていきたいと思います。

日 時： 令和元年7月28日(日) 14:00～16:30  
場 所： 豊岡稽古堂交流室3-1  
(豊岡市役所敷地内、大開通り正面:豊岡市中央町2-4)  
定 員： 40名(先着順)  
参加費： 無料(飲み物は各自でご持参ください。稽古堂にも自動販売機はあります)

1. 話題提供 (14:00～15:15)  
京都造形芸術大学歴史遺産学科教授 杉本 宏氏  
「地域の個性と文化的景観」
2. ディスカッション (15:15～16:30)  
ファシリテーター:小原 嘉文・今津 瞬  
(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科博士前期課程)

### ●サイエンスカフェRRM 2019年度スケジュール

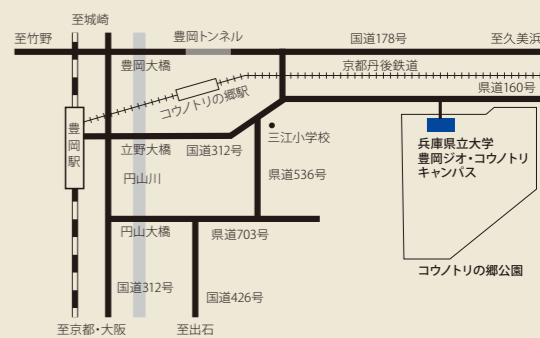
回	期日	話題提供者
16	5月12日(日) 14:00～16:30	岡田 誠氏(茨城大学理工学研究科) 「地磁気の運転とチバニアン」
17	7月28日(日) 14:00～16:30	杉本 宏氏(京都造形芸術大学歴史遺産学科) 「地域の個性と文化的景観」
18	10月27日(日) 14:00～16:30	長谷川 雅美氏(東邦大学理学部生物学科) 「伊豆諸島におけるヘビとトカゲの共進化、 長期野外研究で分かっていたこと(仮題)」
19	12月8日(日) 14:00～16:30	石田 啓祐氏(徳島大学) 「若杉山:日本最古の水銀朱鉱山遺跡を地質学から読み解く(仮題)」



兵庫県立大学大学院  
地域資源マネジメント研究科 RRM  
〒668-0814 豊岡市祥雲寺128(兵庫県立コウノトリの郷公園内)  
兵庫県立大学豊岡ジョ・コウノトリキャンパス  
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200  
E-Mail: u\_hyogo\_toyooka@ofc.u-hyogo.ac.jp  
<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



発行:2019年6月



【写真提供】  
松原 典孝:キャンパス前の風景  
内藤 和明:オモダカ  
泉山 真寛:ピオトープ  
田川 愛:吸虫Rに寄生されたシマヘビ  
石橋 弘明:凝灰岩製石燈籠  
下中 智晃:魚つかみ大会

# 地域資源マネジメント研究科 RRM2018年度修了生<sup>博士前期課程</sup>の研究成果

地域資源マネジメント研究科は、2014年度の開設以降、これまでに合計29名の博士前期課程修了生を送り出しています。本号では、今年3月に巣立っていった修了生の研究成果の一端を紹介します。

## RESEARCH PRESENTATION

### 泉山 真寛 Masahiro Izumiyama

所屬・職業 / 大阪府青少年活動協会 (副会長)・吹田市自然体験交流センター

#### 兵庫県豊岡市のビオトープにおける水生動物群集の特徴と生息場所要因



調査を行ったビオトープの全景

水田とは異なることが明らかとなりました。以上より、今後ビオトープを造成していく際には、上記で得られた環境要因を加味したハビタットの創出にもとづく種の多様性の保全が望まれます。

Research Presentation [エコ] ECO

### 石橋 弘明 Hiroaki Ishibashi

所屬・職業 / 大谷大学真宗総合研究所

#### 身近な歴史的石造物の石材産地を探る

日本列島各地には江戸時代などにつくられた石造物が膨大な数存在しています。それらの歴史的石造物について、今まであまり注目されてこなかった石材という視点から迫る研究を行いました。今回は肉眼観察に加え、最近はじめられた手法である帯磁率測定を用いることで、それぞれの歴史的石造物の石材がどこで産出した岩石かを探りました。



鹿野神社の竹野町青井浜産の凝灰岩石燈籠 (豊岡市竹野町、安永9年(1780年)銘)

Research Presentation [ジオ] GEO

### 田川 愛 Megumi Tagawa

所屬・職業 / 兵庫県立大学大学院環境人間学研究所 共生博物館 博士後期課程1年

#### ヘビ類に寄生する外来種の可能性が高い寄生虫(吸虫R)

私は大学院で、外来種の可能性が高いある属の寄生虫(吸虫R)とヘビ類の関係性について研究していました。吸虫Rは巻き貝からカエルに移り住み、最後はヘビに寄生し卵を作り、ヘビの糞と共に卵が水辺に流れることでまた巻き貝に寄生するという生活をしています。吸虫Rが日本に came しまった理由としてウシガエルなどがアメリカから持ち込まれたことが考えられています。私の調査では吸虫Rがヘビに悪影響を与えているという結果は得られませんでした。しかし、先行研究では多量の吸虫Rに寄生されると嗅覚に関わる器官が害されるとされており、実際にそのような個体は大変弱った様子でした(写真)。



吸虫Rに過剰寄生されていたシマヘビ。黒い楕円形の1つ1つが1個体の吸虫R。

今後、私達自身がこのような生物の媒介者にならないよう外来種問題を捉えていくべきだと私は考えています。

Research Presentation [エコ] ECO

### 下中 智晃 Tomoaki Shimomaka

所屬・職業 / 豊岡市役所

#### 戦後の但東町の組織再編と住民が抱くアイデンティティとの関係

研究対象地の但東町(兵庫県)は、昭和の大合併で成立した自治体ですが、過去に合併庁舎の位置や中学校統合問題などで町を二分する紛争がありました。原因としては、町当局が推進する方針と、地区住民の思いが一致しなかったことにあります。その背景には「根強い住民感情」が存在し、それを「ローカルアイデンティティ」という用語でとらえながら事例研究に取り組みました。



但東青少年健全育成子育て応援団主催の魚つかみ大会

アイデンティティの容へとながる可能性を秘めていると言えます。

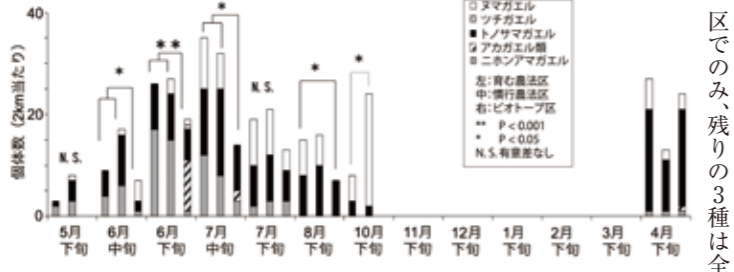
Research Presentation [ソシオ] SOCIO

### 藪下 拓斗 Takuto Yabushita

所屬・職業 / JA鳥取中央

#### 異なる湿地環境におけるカエル類の出現状況

兵庫県豊岡市では環境保全型の稲作である「コウノトリ育む農法」(育む農法)が行われています。本研究では育む農法が優占する区と、従来の稲作が優占する区、および水田ビオトープ区で、カエル類の出現状況と食性を調査しました。



本研究では、農法による顕著な違いはみられませんが、ビオトープと水田で出現状況が異なっていたことから、カエル類の多様性保全のためには様々なタイプの湿地環境の存在が重要だと考えられました。

Research Presentation [エコ] ECO